夏休みを楽しく安全に―

健全育成にご協力を

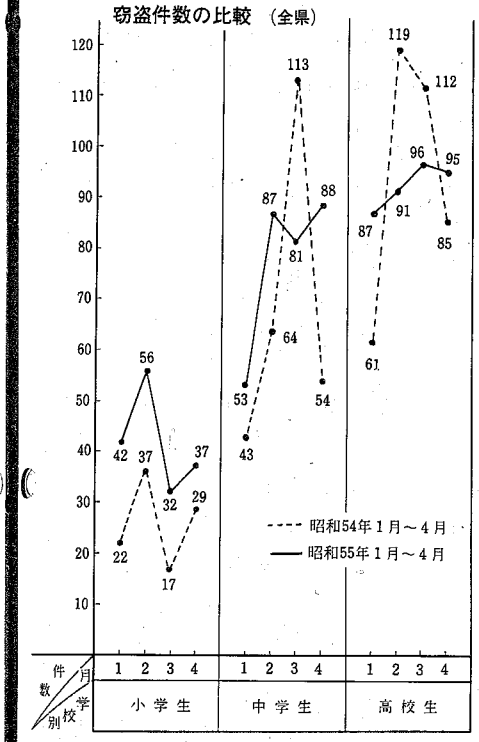
子どもたちの待ちに待った夏休みです。でも解放感から、とかく間違いが起こりやすいのも夏休み期間中です。

左のグラフは、小・中・高別に見た窃盗件数の去年と今年の比較です。小学生の事件が増えており、「非行の低年齢化」を裏づけています。

非行化していくにはいろいろな原因が重なり合っていると思われますが、なんといっても大切なのは、学校・家庭・地域が一体となって、将来を担う子どもたちのために手をさしのべてやることです。

夏休みを迎えるにあたって、県の小学校長会、中学校長会、それにPTA連合会では、子どもの指導の「十四のポイント」をかかげて、みなさんの協力を呼びかけています。また、当市でもPTAのみなさんが、八月中に十回、街頭に出て子どもたちの指導にあたることになっています。ぜひご協力ください。

窃盗件数の比較（全県）



子どもの指導・十四のポイント

こんな注意を

▽態度、服装、持ち物に注意をはらう
▽むだづかいはさせない
▽夜遊びや無断外泊はさせない
▽子ども部屋は気をつけて見る
▽子どもの友人関係に注意をはらう

こんな指導を

▽人に迷惑をかけない
▽子どものわがままな要求はしりぞける
▽よその子にも声をかける
▽学校や社会のきまりを守らせる
▽何でも気軽に学校と相談する

こんな連けいを

▽家庭で仕事の役割を持たせる
▽子どもの特徴を生かして、自信を持たせる
▽将来の目標を持たせ励ます
▽親子の話し合いを大切にする

ステッカー運動で意識の盛り上げ

各地区の青少年対策推進委員会では、いま「伸びよう、伸ばそう、青少年」のステッカー運動を展開しています。各家庭の戸口にステッカーを貼っていただき、明るく、すこやかな青少年を育てるために、地域全体で意識の盛り上げを図っていくことにしています。

またこのステッカーとは別に、市内のすべての商店、事業所を対象に、上のようなパネルを掲示するお願いも進めています。「青少年を育てる協力店」になっていただき、市民総ぐるみで、青少年を育てる環境づくりをめざしています。

一小校区の青少年対策推進委員会では、さきごろ本町4の神明様境内に、青少年健全育成の三角塔をたてました。地盤が悪く、塔をたてるまで悪戦苦闘。流れる汗の中で、ある父兄はポツリと「この苦労を子どもに知ってもらわなければ…」。

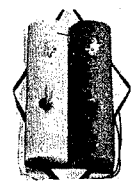
なおこのような三角塔は、市内13か所にたてられました。

青少年を育てる協力店

新津市青少年問題協議会
青少年対策推進委員会
新津駅店街協同組合連合会

お買物、ご用命は市内で

世界超一流の真珠からとれる
化粧品と不老長寿の真珠末
社員募集！1日6時間　月8万円　保険あり
ミキモト化粧品新津営業所
本町三（商工会議所横）電話4―2157



ニイツ銘菓　雪かこい
駿河屋
ニイツ本町2　TEL(2)0543
祝儀・仏事式菓子
銘菓・雲太郎・松坂羊かん
田家屋
ニイツ本町4　TEL(2)0430

明治夜話

（52）　鶴ケ城

Ⅷ　落城の夜の月影

官軍は最後迄鶴ケ城内に攻め込むことができなかった。鶴ケ城の守りは堅かった。だが、食糧、兵器弾薬の欠乏、それに開戦以来死傷者が夥しく多くなっていたのに反し、数万の官軍に取り囲まれ、奥羽越諸藩同盟の各藩が続々官軍に降伏して、会津藩が全く孤立してしまったことなどが敗因と考えられ、九月十八日、の官軍の高田攻撃戦によって、鶴ケ城が外部との連絡を全く遮断されてからは、食糧弾薬は底を衝き、補給の途もなくなってしまった。

十九日に会津藩の手代木直右衛門、秋月悌次郎が塩川の米沢本陣に行って降伏の斡旋を依頼し、米沢の将斉藤主計の案内によって、七日町の土佐藩の陣営に参謀板垣退助を訪うて、降伏の申し入れをしたが、同日、会津藩の両使者を一旦城中に帰し、二日の猶予が与えられ、廿二日を以て開城の日と定めていたから、廿日には恐らく城内において最後の会議が開かれ、松平容保公の裁決によって、遂に降伏の途が選ばれたのであろう。

このようにして、永い苦しい篭城に終止符が打たれ、愈々降伏―開城ということになった。

この開城式前後の有様について、山本八重子は次のように述べている。

「姿は正門の傍より遥かに見ましたので、其場所は判然しませんが、御城の直ぐ前の西郷様と内藤様との間、石橋の辺と申していました。此時、姿共は実に口惜しくて暗涙を呑んで見ていましたが、中には石垣に頭をつけて歔欷流涕していた婦人もありました。

降参の旗は長さ三尺、幅二尺位、それも小布を多数集め、漸く縫い合わしたもので、之を縫う人達は、泣きの涙で針先は少しも進まなかったと申していました。之を一間半位の竹竿に結びつけ、三個所に立て（まし）た。

一本は正門前の石橋の西端、一本は黒鉄御門の殿様の御座所の前、他の一本は判りません。当日の事を考えると残念で、今でも腕を扼したくなります。此時の城中は全く火の消えたように寂然でありました。

二十二日の午前は右の式にて、城の受渡しは午後でありました。城中にいた会津勢は全部三の丸へ移されると、すぐ西軍が入城を致しましたが、其時、入城する西軍が《イヤァー…イヤァー…》と憎らしい程の大音声にて続けざまに叫びつつ、ドツドツドッド……と、三の丸に聞える程の足音を立てつつ、殆んど駈歩にて繰り込んだ、無念さ、一同思わず、

〈ウム…残念…奸賊共…〉

と、今にも斬って入り、腕のかぎり縦横に斬り捲って死のうかと、殆んど衆人一致したのですが、詮方なく、城中音のする方を睨みながら切歯扼腕したのであります。

夕方になると、人員調のため、櫻馬場へ集合しましたが、日、全く暮れたので中止となり、再び三の丸へ戻されたが、最初道路上に立て並べられた葵の御紋の提灯が戻る時には悉皆、揚羽の蝶の提灯に変っていましたので、

《汚らわしい奸賊共の提灯が…ウム残念……》

と歯がみをしました。

姿が歌を書きましたのは此夜の十二時頃で、月は物凄いように輝いていました。」

これについて八重子は『婦人世界』（明治四十二年十一月号）には、「開城になったのが九月二十三日、その夜、三の丸を出ます時に

あすの夜はいづくの誰かなが村らむ　馴れしみそらに

残す月影

という腰折を一首詠みました。」と記しているが、右の二十三日は二十二日の誤りであろう。

この歌は、この晩の十二時頃、三の丸の雑物庫の白壁に、冴えわたる月影を頼りに簪で書きつけたとして、世に喧伝されているものである。したがって、八重子は単に鉄砲を担ぐだけが能の女ではなかった。

（新潟大学名誉教授）

鶴ケ城の女達

（九）

「必殺うずまき地獄」
猫谷　ヘルガ（2年）
新津高校マンガクラブ

まちや行楽地をきれいに

八月一日から七日までは「観光週間」です。

夏は海や山へ出かける行楽シーズンですが、つい浮かれて自動車の窓から空きかんをポイ――こんなことはありませんか。空きかんやゴミの後始末をきちんと――行楽のルールです。

また道路にタバコの吸いがらを捨てるのは非常に危険なうえ、まちを汚します。やめましょう。市民一人ひとりのちょっとした心がけが、美しいにいつのまちを育てます。

お買物、ご用命は市内で

動物の診療・予防・検査・諸手術・入院
預り・健康管理　〈月曜日休診・急患随時〉
ニイツ動物病院
獣医師　白杉友義・獣医師　白杉多恵子
新津市本町2丁目7番21号　☎2-5976・4-6262
（総合結婚式場「一楽」より五泉方面へ200m左側）

駐車場完備
ほねつぎ
坂爪整骨院
新町1　☎(2)0062
駅　大坂医院　森川医院　小林歯科　新町通り　坂爪整骨院